

口永良部島の火山活動 -2008年6月～9月-*

Volcanic Activity of Kuchinoerabujima Volcano, June - September 2008

福岡管区気象台 火山監視・情報センター
 鹿児島地方気象台
 Volcanic Observations and Information Center,
 Fukuoka District Meteorological Observatory, JMA
 Kagoshima Local Meteorological Observatory, JMA

1. 噴煙活動 (第2図)

監視カメラでは、新岳、古岳の噴気は観測されなかった。

2. 地震活動 (第3図、第4図)

火山性地震は、2007年9月以降、減少傾向にあったが、2008年9月2日以降、振幅のやや大きな地震が増加し、4日は70回発生した。火山性地震の震源は、新岳火口周辺のごく浅い所に分布した。

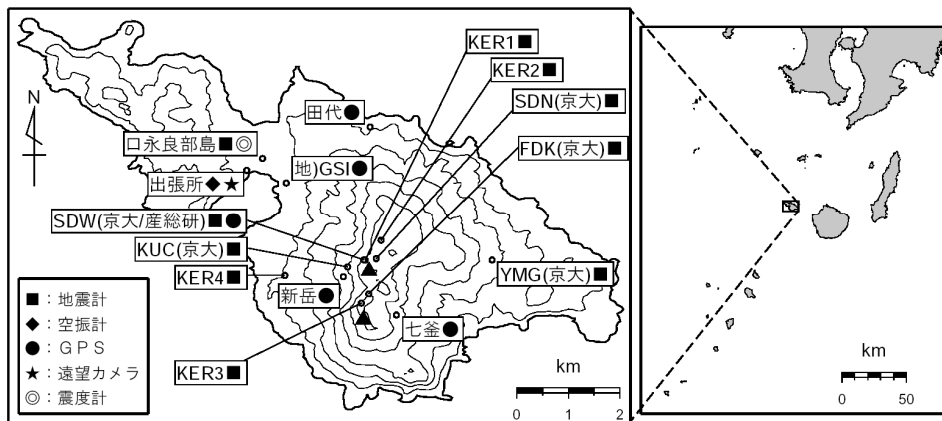
火山性微動は少ない状態で経過していたが、9月10日以降は時々発生した。

3. 地殻変動 (第5図、第6図)

GPSによる連続観測では、9月以降、新岳火口の膨張を示す変化が認められる。

4. 新岳及び古岳火口周辺の状況 (第7図、第8図)

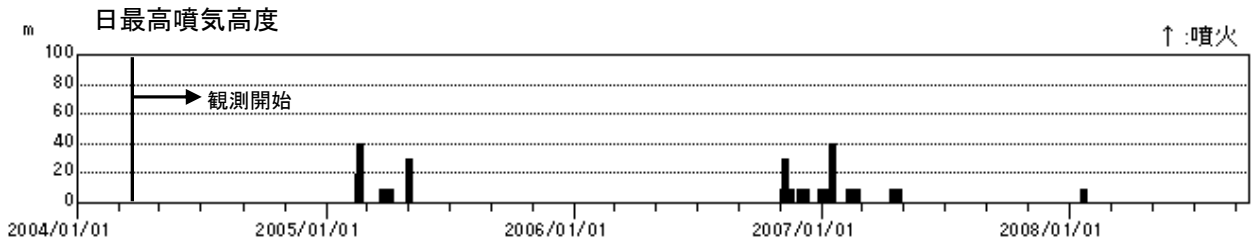
2008年9月6日、鹿児島県の協力を得て、京都大学と鹿児島地方気象台が合同で実施した上空からの観測では、口永良部島新岳及び古岳の噴気活動と地熱地帯の状況等に特段の変化は認められなかった。



第1図 口永良部島 観測点配置図

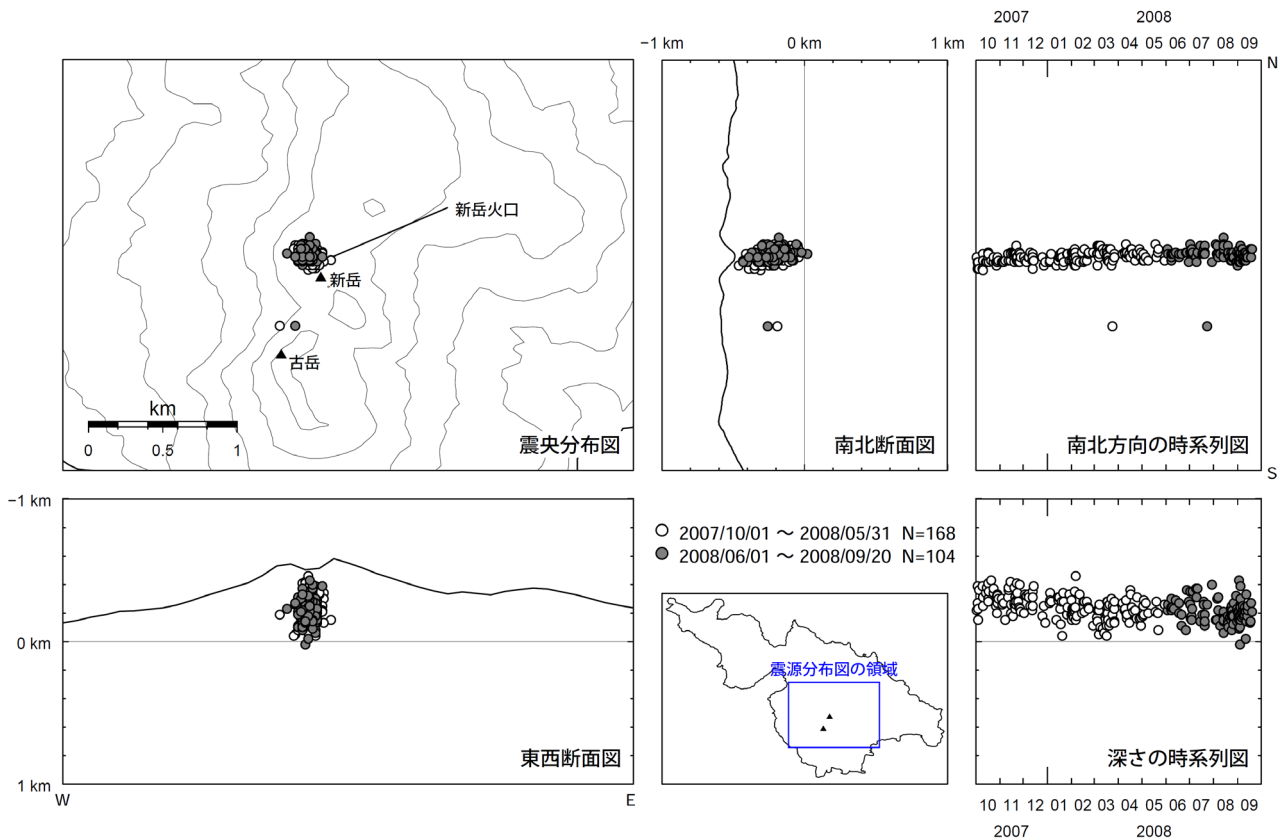
Fig.1 Location map of permanent observation sites in Kuchinoerabujima.

※この記号の資料は気象庁のデータのほか、京都大学、独立行政法人産業技術総合研究所及び国土地理院のデータも利用して作成した。



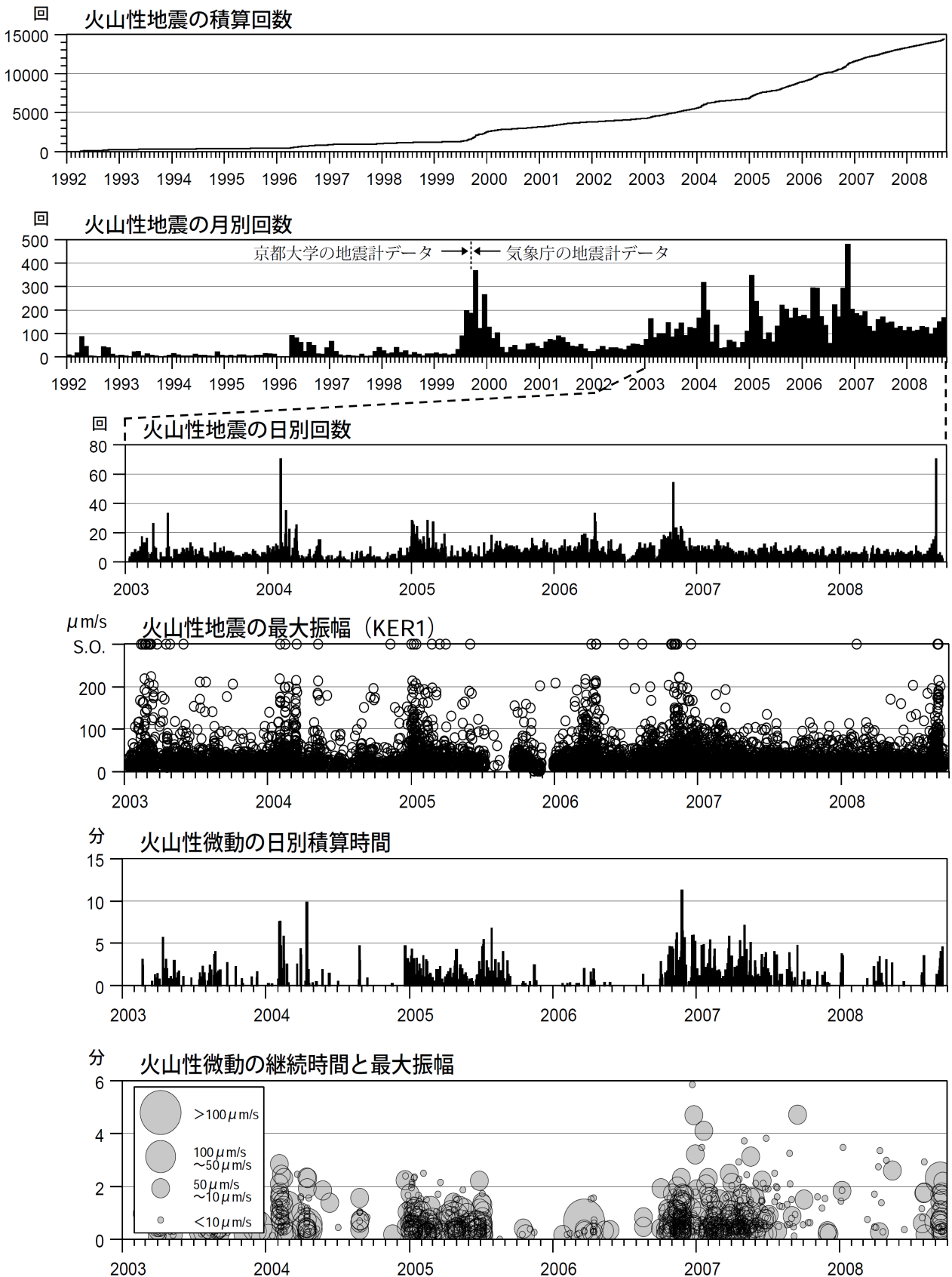
第2図 口永良部島 噴気活動経過図 (2004年3月10日～2008年9月20日)
 Fig.2 Fumarolic activity of Kuchinoerabujima Volcano(March,2004 - September,2008).

今期間、新岳、古岳の噴気は観測されなかった。
 *遠望観測 2004年3月10日観測開始。



第3図* 口永良部島 震源分布図 (2007年10月1日～2008年9月20日)
 Fig.3 Hypocenter distribution around Kuchinoerabujima Volcano(October,2007 - September,2008).
 Top left: Epicenter distribution. Top Center: Cross section diagram(N-S). Top right: Space-time diagram(N-S).
 Bottom left: Cross section diagram(E-W). Bottom right: Depth-time diagram.

火山性地震の震源は、新岳火口周辺のごく浅い所に分布した。
 この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ (標高)』を使用した。



第4図* 口永良部島 火山活動経過図 (1992年1月1日～2008年9月20日)

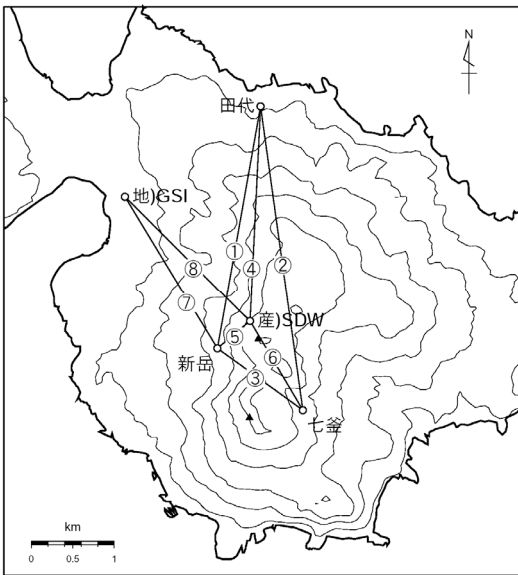
Fig.4 Volcanic activity of Kuchinoerabujima Volcano(January,1992 - September,2008).

・火山性地震は2007年9月以降、減少傾向にあったが、2008年9月2日以降、振幅のやや大きな地震が増加し、9月4日には70回発生した。

・火山性微動は少ない状態で経過していたが、9月10日以降は時々発生した。

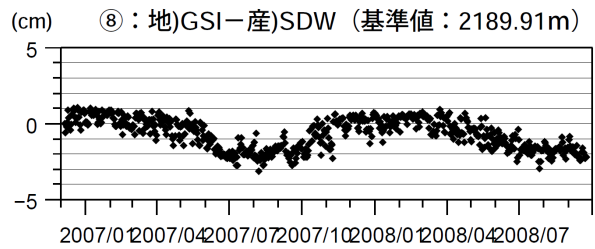
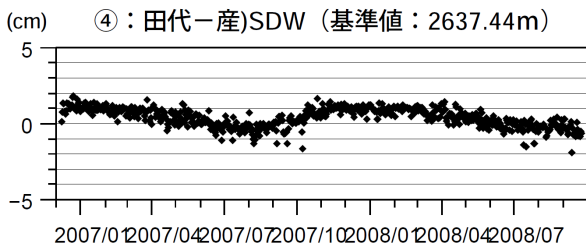
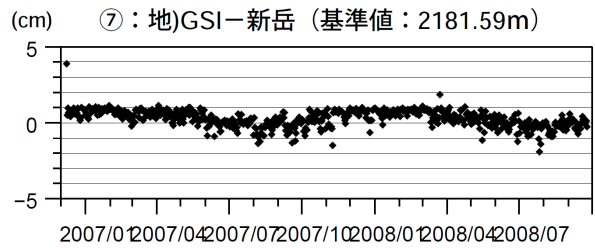
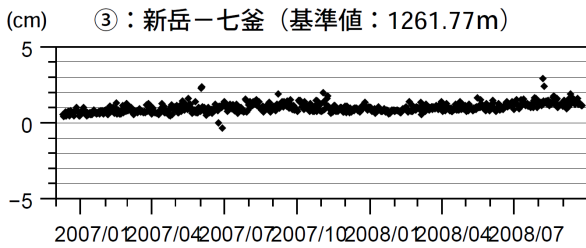
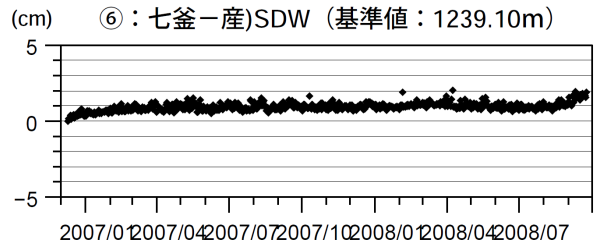
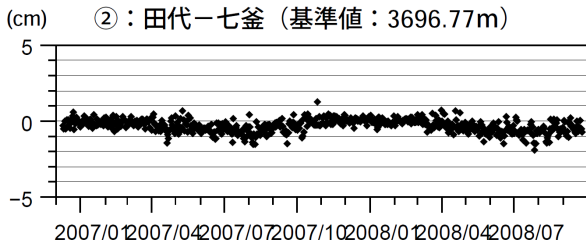
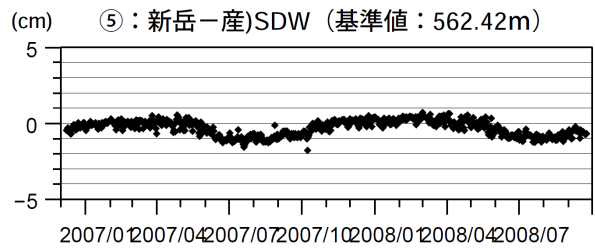
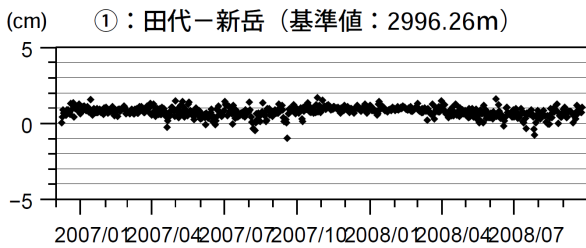
*1992年1月1日～1999年9月12日及び2005年12月15～28日は、京都大学のデータを使用した。

*2002年12月22日～2003年1月11日は、KER1の機器障害のため欠測した。2005年7月9日～9月18日、2005年11月5日～12月14日は、KER1の機器障害のためKER3で回数を計数した。



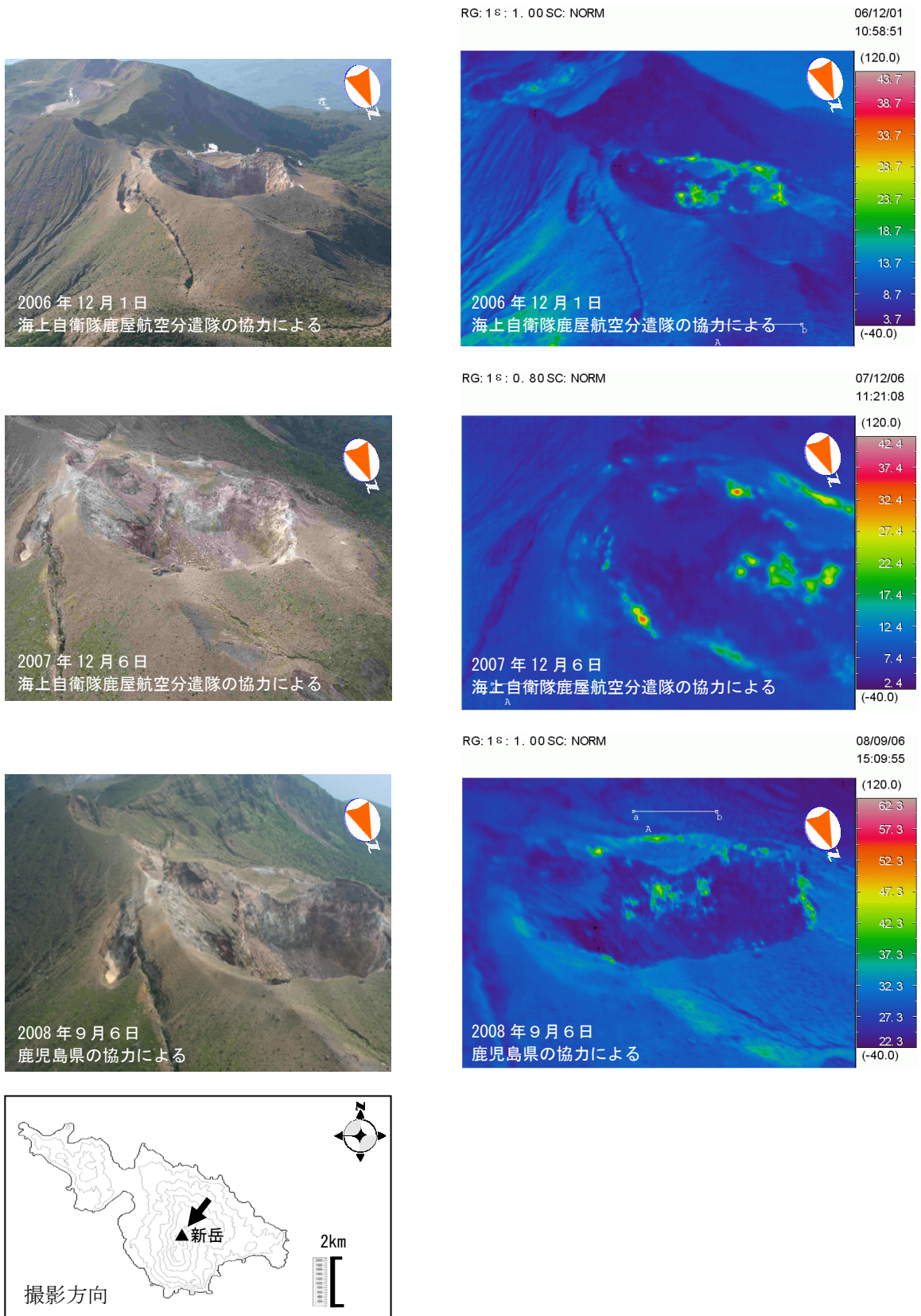
第5図 口永良部島 GPS連続観測基線図
Fig.5 Location map of GPS observation sites.

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ (標高)』及び『数値地図 25000 (行政界・海岸線)』を使用した。



第6図* 口永良部島 GPS連続観測による基線長変化 (2006年12月10日~2008年9月20日)
Fig.6 Results of continuous GPS observations at Kuchinoerabujima(December,2006 - September,2008).

GPSによる連続観測では、9月以降、新岳火口の膨張を示す変化が認められる。

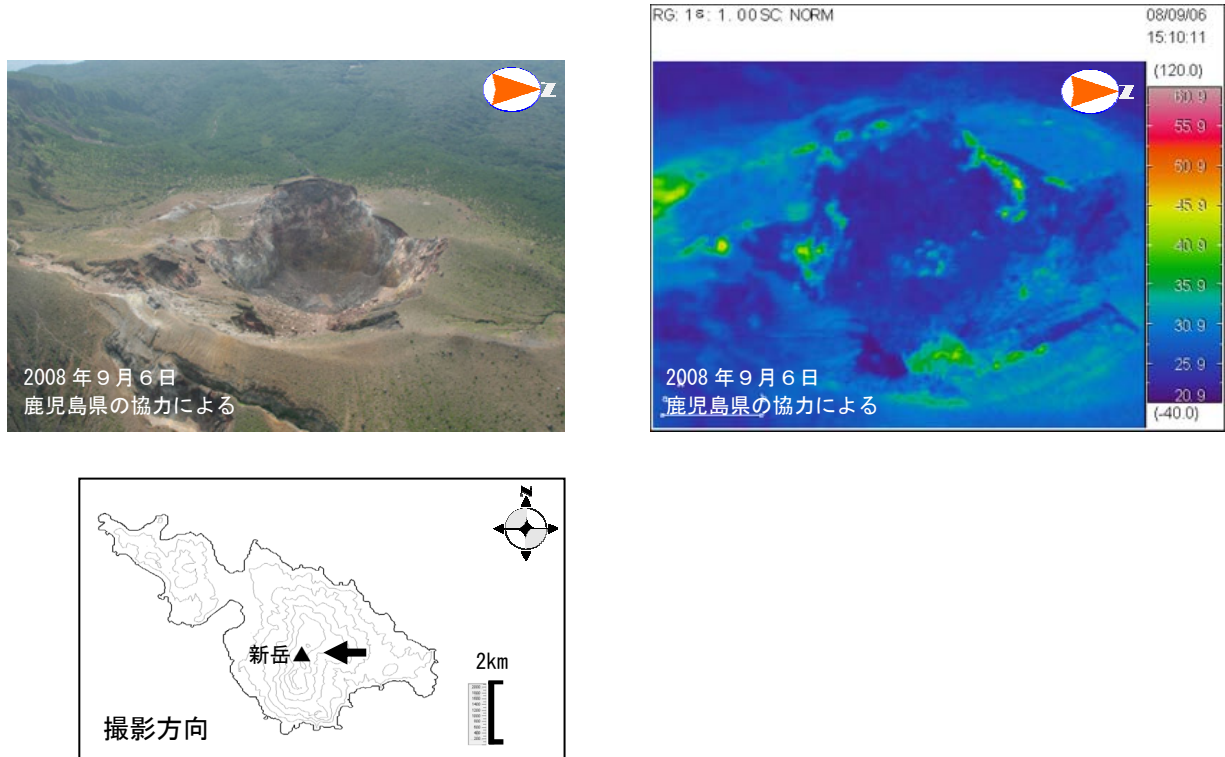


第7図 口永良部島 上空から撮影した可視画像及び表面温度分布
 Fig.7 Visual and thermal images of Kuchinoerabujima Volcano.

鹿児島県の協力を得て行った上空からの観測では、口永良部島新岳及び古岳の噴気活動と地熱地帯の状況等に特段の変化は認められなかった。

*熱画像は図中のラインA上の平均温度から温度表示レンジを調整している。

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用した。



第8図 口永良部島 上空から撮影した可視画像及び表面温度分布
Fig.8 Visible and thermal images of Kuchinoerabujima Volcano.

* 熱画像は図中のラインA上の平均温度から温度表示レンジを調整している。